



分科会風景

分科会主旨

機能とデザイン性に優れ、家族の幸せを考えた住宅「聴竹居」と利休作と伝えられる茶室「待庵」を有する「妙喜庵」から学んだことを基に、現在における環境共生住宅のあり方や後世に残る建築物に付いて意見交換を行った。

フィールドワーク

聴竹居

- ・ 環境共生住宅といわれる「聴竹居」をこの目で見て、確かめて、「建物の原点がここにある」「日本の技が詰まっている建物である」などと、ほとんどの方が感じている。
- ・ 機能とデザインが融合し、家族の幸せを考えた住宅である。
- ・ 周囲の木々の配置、風や光を考慮した間取りと開口部等、まさにエコ住宅である。
- ・ 高断熱 / 高气密の建物（周囲をすっぽり包み、小さな開口）を作ってきたが、工法や材質が向上している今なら聴竹居に近い建物が作れるかもしれない。（北国の方から）
- ・ 莫大な財力と藤井厚二氏の先進性の成せるわざである。
- ・ 自分が建築を志した原点を思い出し、新鮮な気持ちでまた設計の仕事に取り組もうと感じた。



B 分科会 「環境共生住宅」

司会	土田久美子（秋田県建築士会）
アシスタント	中井美佐子（京都府建築士会） 松田 容子（京都府建築士会）
出席者	38名（他 近畿スタッフ6名）

待庵

- ・ 無駄のない造り、狭いものを広く見せる工夫を学んだ。
- ・ 自然にまかせてはいるが、大事に守り保存している京都の文化財に対する姿勢を見習いたい。



まとめ

- ・ 地域の環境はそれぞれ違い、限られた敷地の中で建築物を作る難しさはあるが、聴竹居で学んだことを施主にアドバイスしながら地域に根ざした建物を作っていきたい。
- ・ 気候風土に適した建築材料を使うことは、地場産業の育成や発展につながる。
- ・ 古い建物を維持、管理していくことに苦労している現状があり、支援活動も必要ではないか。
- ・ 仮設住宅でも「機能 + デザイン + 風光」を考慮すべきでは。